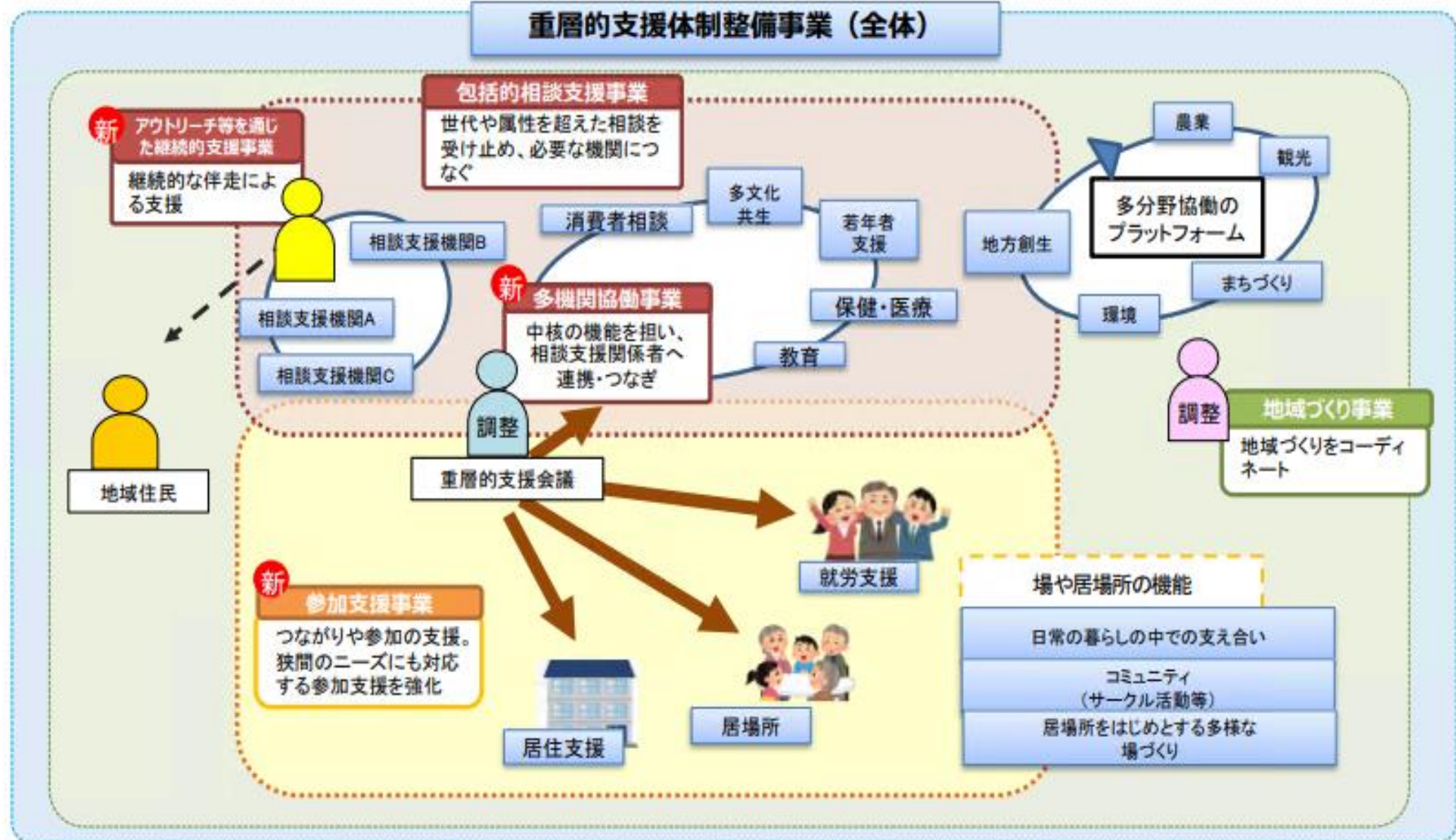


重層的・包括的支援体制の構築に係る 進捗状況について

令和6年8月19日（月）

保健福祉局 健康福祉部 地域福祉課

1 重層的支援体制整備事業の全体像（国事業）



2 国のスキームに照らした本市の重層的・包括的支援体制構築の全体スケジュール

事業等			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
			重層的支援体制整備事業への移行準備事業実施			重層的支援事業本格実施	
重層的支援体制整備事業	①相談支援	多機関協働	開設準備 運用検討	【第1段階】多機関協働・包括的相談支援の実施 (福祉まるごとサポートセンターを開設し実施)			重層的支援体制整備事業の全メニューの実施
		包括的相談支援	分野間（介護・障害・子ども・生活困窮）の連携による相談支援を継続			4分野の一体的実施	
		アウトリーチ支援	手法の検討	【第2段階】アウトリーチ支援の実施 (福祉まるごとサポートセンターで実施)			
	②参加支援	手法の検討		【第3段階】参加支援の実施			
	③地域づくり支援	既存の分野別（介護・障害・子ども・生活困窮）の地域づくりを継続			4分野の一体的実施		
		手法の検討					

重層的支援体制整備事業の全メニューの実施

福祉まるごとサポートセンターの相談受付状況(6か月間_R5.10~R6.3)

- 令和5年度(6か月間)の延べ相談受付件数は、**2,043件**(1日あたり平均14.2件)
- 新規相談者数(実人数)は、6か月合計で**574人**
- 新規相談のうち、**347人(約60%)**が、公的制度の案内や専門機関への繋ぎなど**相談月内で完結**
一方、課題解決に相応の時間を要する相談もあり、3月末現在で**206件(約36%)が未完結**
- **本人・家族からの相談が335人(約59%)**。その他、相談支援機関など、様々な方から相談が寄せられている

①延べ相談受付件数とその受付方法

※「その他」は、ケース会議で相談を受けたものなど

電話	来所	訪問	メール	その他	計
1,537	118	249	103	36	2,043

②新規相談者への支援状況

			完結						継続 (R6.3.31現在)
			10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新規	10月	144	101	8	0	0	0	0	35
	11月	95	-	56	9	0	0	0	30
	12月	96	-	-	59	1	1	0	35
	1月	101	-	-	-	62	1	0	38
	2月	71	-	-	-	-	42	1	28
	3月	67	-	-	-	-	-	27	40
	計	574	101	64	68	63	44	28	206

③新規相談者の内訳

区分	人数	割合
本人	205	36%
家族	130	23%
相談支援機関	66	11%
医療・介護機関	57	10%
行政機関	26	5%
民生委員	24	4%
その他	66	11%
計	574	

④対象者の状況(主なもの)

※1事案で複数の状況に当てはまるケースあり

高齢	障害			疾病	経済的困窮		不登校・ひきこもり	子育て世代	外国籍
	精神	知的	身体		生保受給	生保以外			
256	111	30	36	70	63	77	24	11	18

アウトリーチ等を通じた継続的支援の概要

- **自ら支援を求めることが難しい方や生活課題に対する自覚がない方、つながることに拒否的な方など**に対し、支援を届けるために行うもの。

例) ひきこもり、ヤングケアラー、社会的孤立、多頭飼育問題 等

- 本人と直接かつ継続的にかかわるための**信頼構築**や、本人との**つながりづくり**を重視。

- 民生委員・児童委員、コミュニティソーシャルワーカー、区地域づくり支援課、既存の相談支援機関などと連携しながら事例を把握
- 本人・世帯とのつながりを形成するために、手紙やリーフレット等での**情報提供**や**家庭訪問・SNSの活用**等による実施

3 参加支援及び地域づくりに向けた支援事業の概要

(1) 背景

- ・生活課題の複雑化・複合化の背景には、社会的孤立など**関係性の貧困**があり、それが本人の**自己肯定感**や**自己有用感の低下**につながっていることが多い。
- ・社会の一員としての役割を果たすことで、自己肯定感や自己有用感を回復できる側面があるため、多様な社会参加に向けた支援が求められている。

(2) 実施主体

参加支援事業

市町村（委託は可）

地域づくりに向けた支援事業

市町村（委託は可）

(3) 支援対象者

参加支援事業

既存の各制度の社会参加に向けた支援では**対応できない個別性の高いニーズ**を有している者。

地域づくりに向けた支援事業

各事業が対象とする高齢者・障害者・子育て中の親子・生活困窮者の居場所を確保した上で、**全ての地域住民**を対象とする。

3 参加支援及び地域づくりに向けた支援事業の概要（続き）

（４）事業内容

参加支援事業

既存の社会参加に向けた事業では対応できない狭間の個別ニーズに対応するため、本人やその世帯の支援ニーズと地域の社会資源との間を調整。

- ① **社会とのつながりを作る**ための支援。
- ② 本人のニーズを踏まえた**マッチング**やニーズに合った**支援メニューの開拓**。
(新たに作る、既存資源の幅を広げる)
- ③ 本人の**定着支援**と**受け入れ先の支援**。

※プラットフォーム…様々な分野の関係者が集い、関係性を深めるための場

地域づくりに向けた支援事業

介護、障害、子育て、生活困窮の分野ごとに行われている既存の地域づくりに向けた支援を一体的に実施することにより、属性に関わらず、全ての地域住民を対象としつつ、多様な地域活動が生まれやすい環境を整備。

【参考】＜一体的実施の対象事業＞

ア 地域介護予防活動支援事業 イ 生活支援体制整備事業
ウ 地域活動支援センター事業 エ 地域子育て支援拠点事業
オ 生活困窮者支援等のための地域づくり事業

- ① **世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を確保**。
- ② 交流・参加・学びの機会を生み出すために**個別の活動や人をコーディネート**。
- ③ 多様な地域づくりの担い手が出会い、学び合う**プラットフォームの形成**を通じて、**多様な地域活動が生まれやすい環境を整備**。

4 参加支援 ～相談支援・地域づくり支援との関連性～

- 参加支援は、地域の社会資源などを活用して、社会とのつながり作りに向けた支援を行うもので、「相談支援」と「地域づくり支援」とのそれぞれに重なる部分がある。

相談支援

- ① 包括的に相談を受け止め、課題を解きほぐし、利用可能な福祉サービス等の情報提供や専門支援機関への繋ぎ等を実施
- ② 複雑化・複合化した事例の調整役を担い、役割分担や支援の方向性を定め、支援プランを策定
- ③ 社会的に孤立している方など、支援が届いていない方への働きかけを実施

参加支援

本人への支援

- 支援の方針、内容等に関する意見調整
- 本人のニーズに沿った支援メニューとの
マッチング
- 本人の定着支援
- 受入先のフォロー

① マッチング

地域との調整

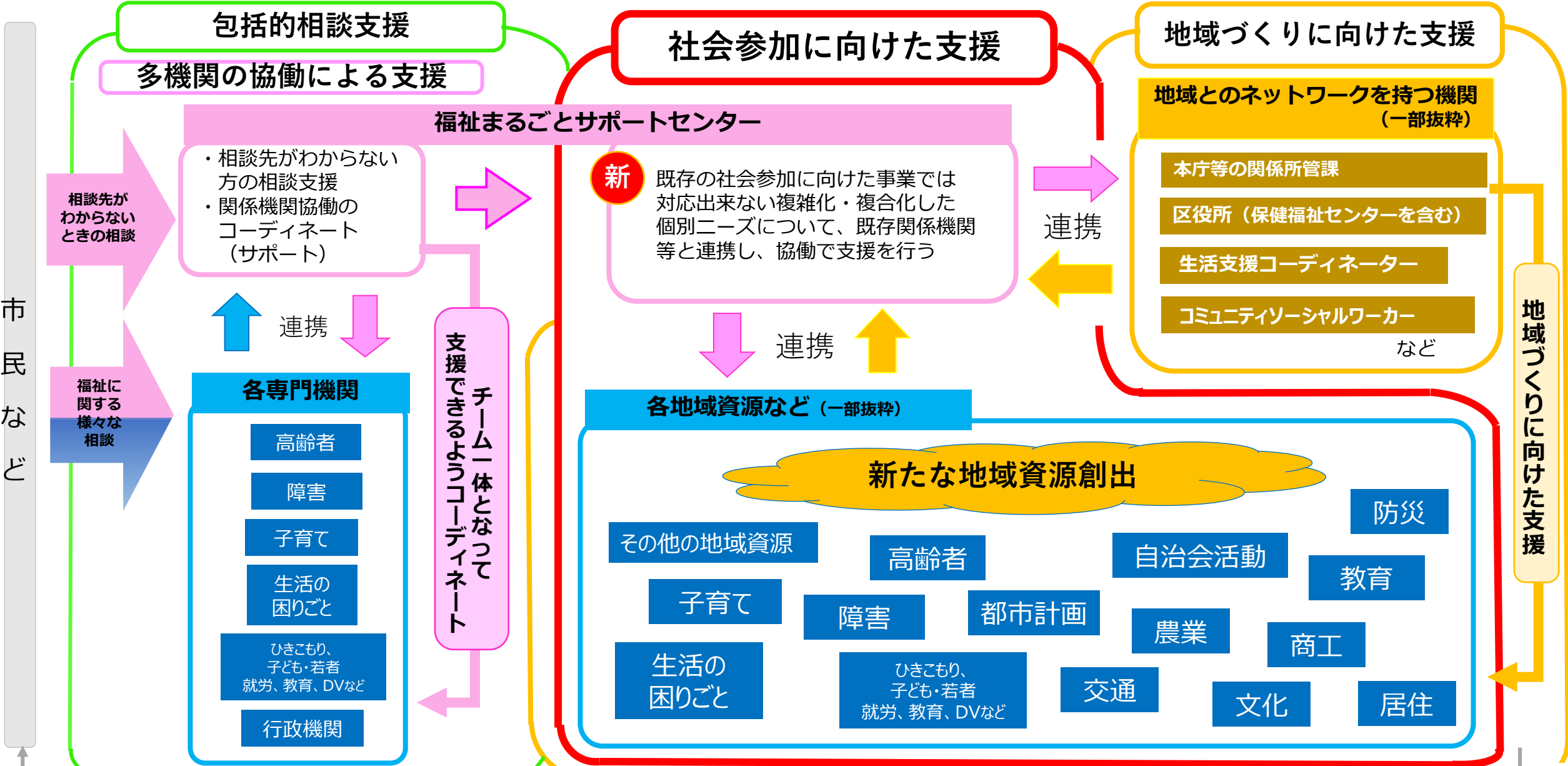
- 既存の社会資源に働きかけたり、拡充を図り、本人のニーズに合った
社会参加に向けた多様な支援メニューを作成

② 資源開拓

地域づくり支援

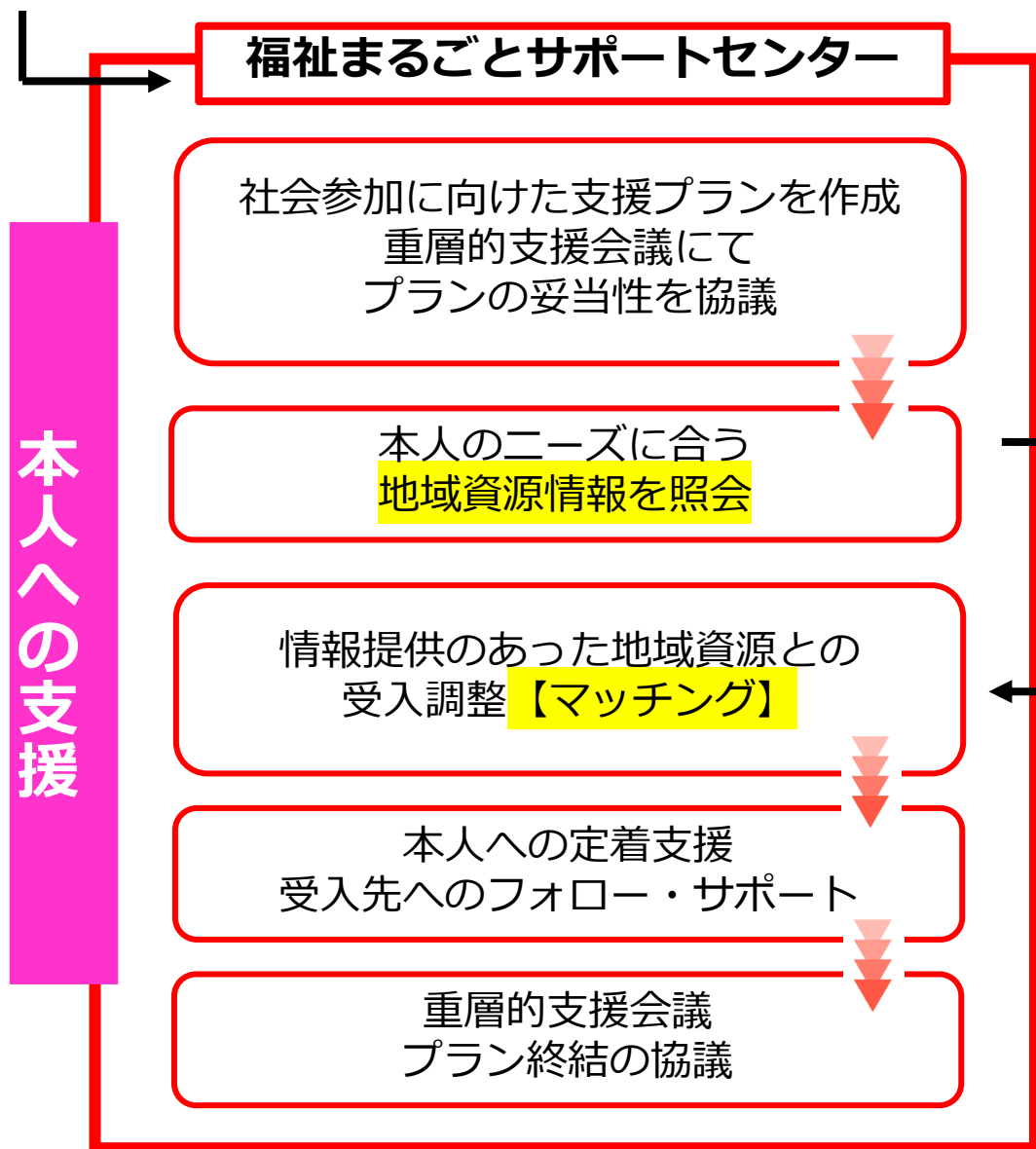
- ① 世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を確保
- ② 交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネート
- ③ 多様な地域づくりの担い手が出会い、学び合うプラットフォームの形成を通じて、多様な地域活動が生まれやすい環境を整備

5 本市の重層的・包括的支援体制（案）～全体～

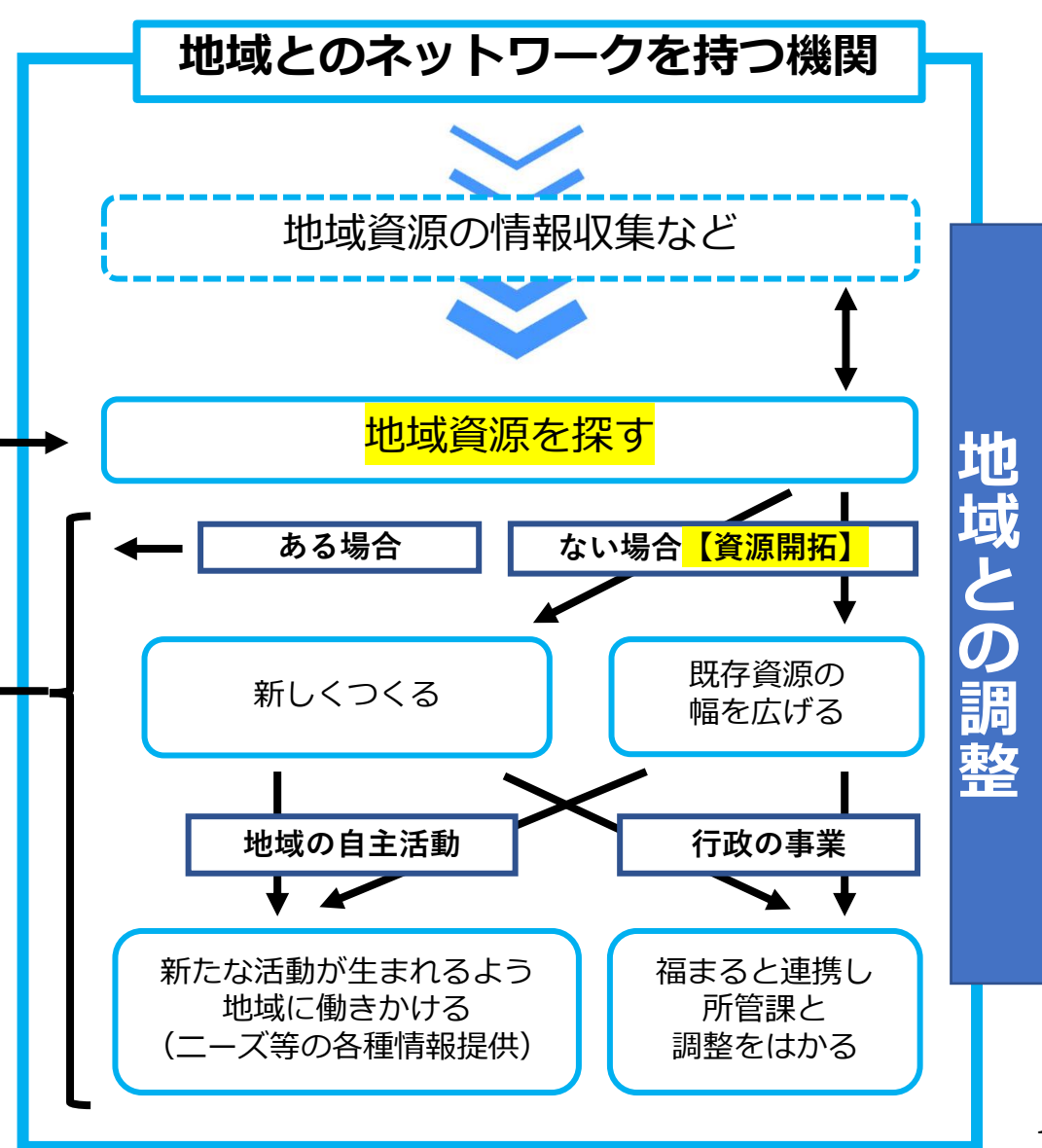


5 本市の重層的・包括的支援体制(案) ～社会参加に向けた支援の詳細フロー～

繋ぐ先が見つからない複雑化・複合化した個別ケース



地域づくりに向けた支援との連携



情報提供

6 前回の分科会でいただいたご意見等

○ 相談支援全般について

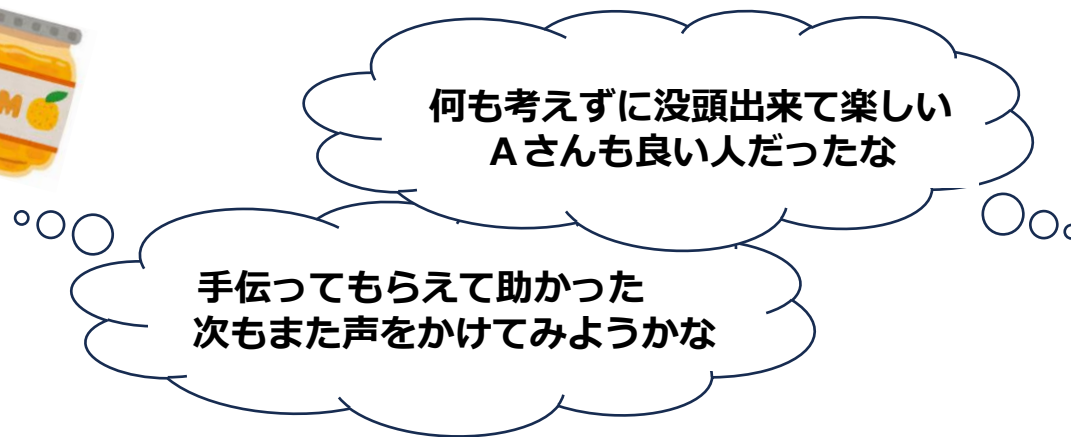
- ・複雑な相談に対しても、多機関との調整や訪問などを行い、付き添い型の支援、解決の方向性が見えてくるような支援をしていると各所より伺っている。引き続きお願いしたい。
- ・1か月あたり約30件程度訪問しているという実績は積極性を感じる。今後の活動に期待。

○ 参加支援、地域づくり支援について

- ・地域では、あらゆるところで**担い手不足問題**が発生している。それを踏まえたうえで、体制整備を進めるということが、今後の大きな課題だと思う。
- ・参加支援について、説明を聞いただけではあまり想像できない。地域みなさんにさらに理解してもらうためには、もう少し**具体的な内容説明が必要**だと思う。
- ・既存の生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカー等でも、なかなか打開策を見いだせていない方々がたくさんいると思うので、難しいとは思いますが、**協働して取り組んでほしい**。
- ・社会福祉法人の地域貢献（例：地域交流スペース）等についても、相互活用できると良いと思う。
- ・現在4～50代のいわゆる団塊ジュニア世代に対し、プロボノという形での地域貢献、新たな生きがい探し、と銘打って働きかけるのも良いと思う。
- ・細かい地域に入り込んで相談に乗っていく必要があると思うところ、自治会関係へのアプローチという意味で区役所等との連携は必須。**自治会エリア単位での連携を進めていくうちに、社会参加や、それに付随する地域資源開拓にも繋がると思う**。

7 参加支援の想定例【地域の自主活動に働きかけるパターン】※フィクションあり

- <ケース1> 50代女性独居。定職にはついておらず、家族からの仕送りをもとに生活している。日々の買い物等で外出はしているが、近隣に住む本人家族の友人より、本人の足腰の調子が少し悪そうに見受けられるとの相談があり、福まるが関わりを開始。
→ 本人へのアウトリーチの結果、足腰の状態については緊急を要する状態ではなかったものの、日々孤独感を感じていることや、料理が好きという情報をキャッチした。



【繋がりそうな地域資源】

庭のみかんの木が例年ほったらかしになっていてもったいない、ということから、地域で協力して、そのみかんをジャムにして販売する活動をしているAさん。最近仕事が忙しくなり、人手が足らず、ちょっと困っている。

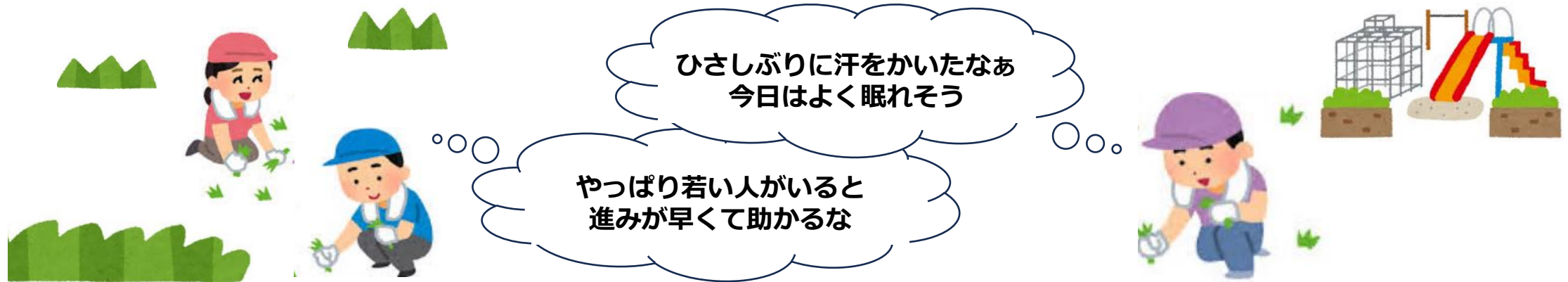


【本人の選択】

料理は好きだが、知らない人たちの集まりに行くことは気が重かったので、自宅で煮詰める作業をやってみることに。
⇒ お礼を伝えに来てくれたAさんとは、外ですれ違ったらお辞儀し合う関係になることが出来た。

7 参加支援の想定例【地域の自主活動に働きかけるパターン】※フィクションあり

＜ケース2＞ 40代男性独居。病気を患い、会社の現業務を継続することが困難になった。身体的な影響は少ないものの、徐々にふさぎ込みがちになり、いったん長期で病休を取得。自治会長を務めている本人父より相談があり、福まるが関わりを開始。
→ 父への聞き取りの結果、本人はまだ人と話す気持ちにはなれないが、少しずつ外に出たいと思っているらしいという意思を確認。



【繋がりそうな地域資源】

公園内に外来種の植物が群生しており数人のグループで除去活動を行っているBさん。昔は子どもたちにも手伝ってもらっていたが、今はそれも難しく活動メンバーも徐々に高齢化が進んでいて、ちょっと困っている。

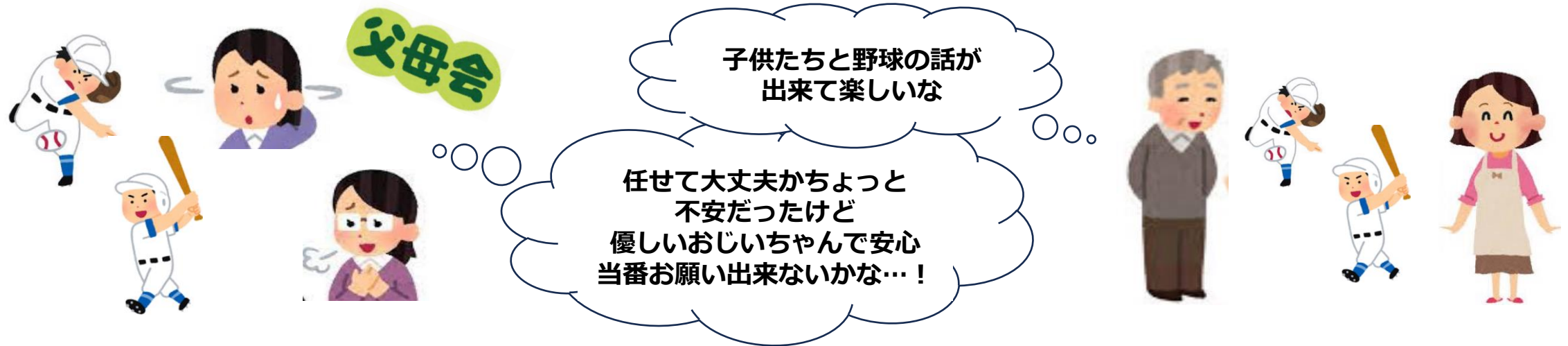


【本人の選択】

小さい頃に遊んでいた公園だったことをふと思い出し、何となく気が向いたので、紹介された草むしりのお手伝いに行ってみることにした。
⇒ 身体を動かしたことで、心なしか前向きな気持ちになることが出来た。

7 参加支援の想定例【地域の自主活動に働きかけるパターン】※フィクションあり

＜ケース3＞ 70代男性。妻と同居。退職したことを契機に、外出頻度が著しく減り、生活支援コーディネーターが関わるようになった。いわゆるサロン等の通いの場合は本人が望んでおらず、提案が難航したことから、福まるも協働で関わりを開始。
→ 本人から、野球観戦が好きという話を聞き出すことが出来た。



【繋がりそうな地域資源】

少年野球チームにて、父母会として輪番でファウルボール等の注意喚起・見守りを行っているCさん。仕事の都合で当番をキャンセルせざるを得ない保護者もあり、当番を行う回数が増えてきて、ちょっと困っている。

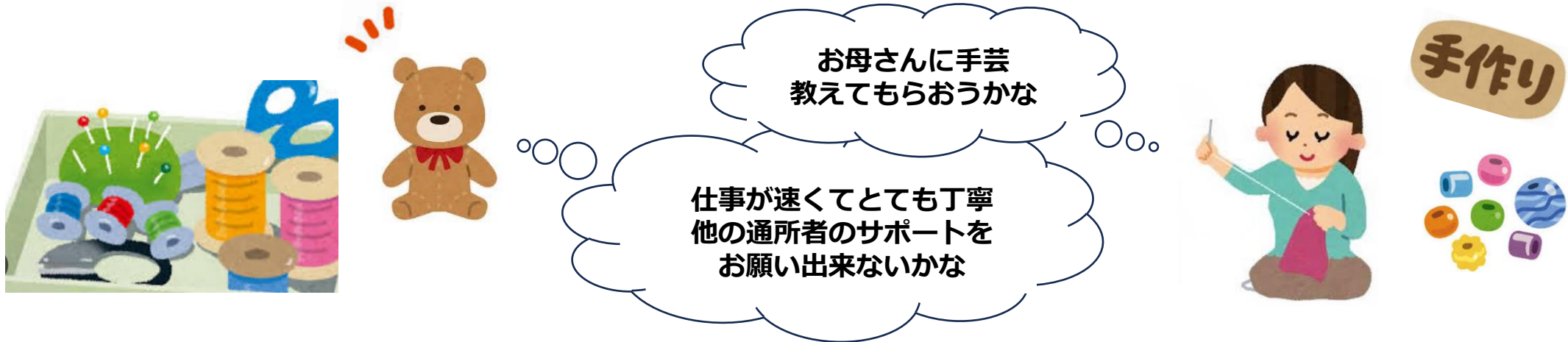


【本人の選択】

大好きな野球が見られるならやってみよう、と、少年野球チーム父母会のお手伝いに。時折転がってくるボールを子供たちに手渡しすることから始めた。
⇒ 何回か出向いたところで、子供たちや保護者とも世間話をするように。

7 参加支援の想定例【公的サービスに働きかけるパターン】※フィクションあり

＜ケース4＞ 30代女性。家族と同居。発達障害の疑いがあるが、通院や障害者手帳の申請には非常に消極的。周りと同じペースで仕事をするのが難しく、一般就労はなかなか続かない。障害者基幹相談支援センターと福まるが協働で関わりを開始。
→ 本人と面談すると、母親の趣味である手芸に興味を示す様子が見られた。



【繋がりそうな地域資源】

障害のある方が通う福祉サービス事業所の管理者Dさん。アクセサリ製作や編み物などの手芸作業を通じた生産活動の場を提供している。定員10名の作業所だが、ちょうど1名分空きが出ている。

(※) 本来は障害者手帳の取得が通所条件

【本人の選択】

手芸をやってみたいという好奇心から、まずは週3回通所してみることを選んだ。
⇒ 休み休みではあるが、数か月、楽しみながら通い続けることが出来た。

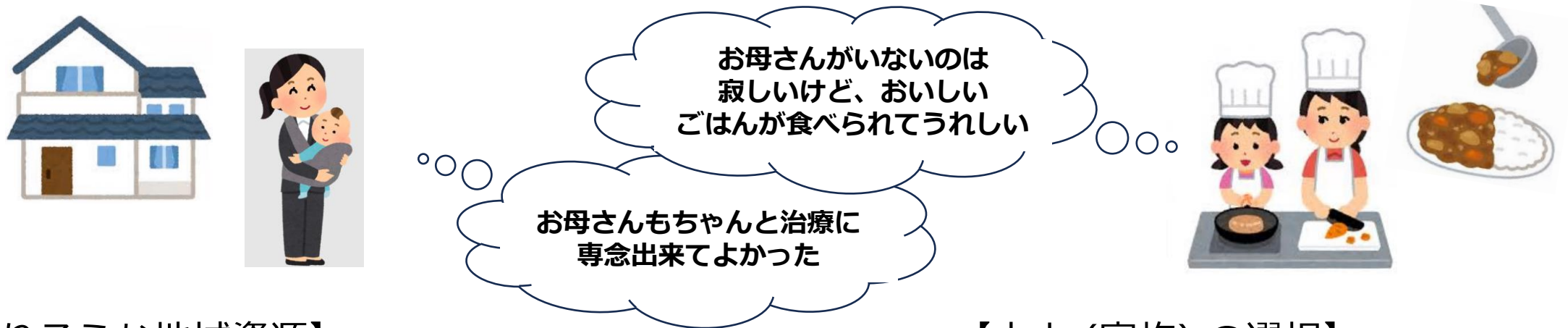
(※) 定員の空き枠を活用するなど、事業所側の余力の範囲での協力が大前提



7 参加支援の想定例【公的サービスに働きかけるパターン】※フィクションあり

<ケース5> 父、母、長女（小1）、長男（5歳）の4人家族。長男は医療的ケア児だが、父が不定期勤務であることから、普段は母がほとんどワンオペ状態で対応。そのため、長女へのケアが疎かになりがちである。その母が数日間入院することとなり、長女へのケアが今以上に不十分となる可能性があることが分かった。

→ 健康課の保健師より相談があり、福まるも協働で関わりを開始。



【繋がりそうな地域資源】

子育て世代向けの有償ボランティアサービス サポーターに登録しているEさん。ボランティア歴は長く、行政の保健師も頼りにしている。入院することになった母親家族とは同じ町内自治会に入っていることから、顔見知り程度の仲である。

(※) 本来は家事援助サービスは対象外

【本人（家族）の選択】

母親が入院する3日間のみ、夕方頃に長女と一緒に夜ごはんの支度をしてもらうようお願いすることとした。

⇒ 当初長女は動揺していたが、徐々に楽しそうにお手伝いする様子が見られた。

(※) サービス提供時間や報酬については
事前に打ち合わせを行い、認識を共有



マッチング

8 参加支援及び地域づくりに向けた支援 まとめ

- これまでの福祉施策は事後的対応（火事の火を消す）
- 8050問題、ヤングケアラーなど問題が複雑・多様化する中で、人的も金銭的にも限界（火が消えないうちにまた火の手が上がる）
- 重層的支援体制整備事業ではこれまでの相談支援の強化だけに留まらず、予防面も含めて重層的な体制を作ること（**共創型の支援体制へのRe-Design**）を目的としている（消火機能の強化＋初期消火の強化＋予防）

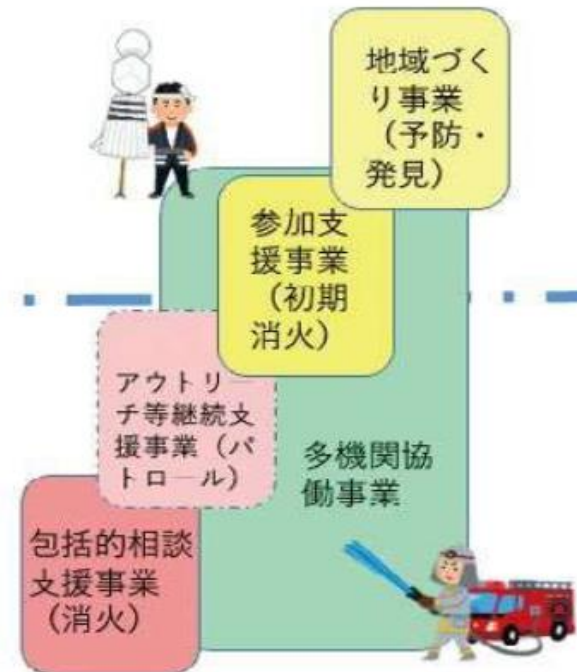
黄信号から赤信号になる前も含めて考える

- ・ 予防的
 - ・ 面的対応（地域づくり）
 - ・ 住民対応
 - ・ オープン（インクルーシブ）
 - ・ やりくり
- ⇒ 民間向き（予防・交流・地域づくり）

参加支援事業

本人のニーズ・希望と地域の人・モノ・カネなどとの間のコーディネートを行うことで、多彩な社会参加を実現する。

- ・ 事後的
 - ・ 個別救済
 - ・ 専門家介入
 - ・ 個人情報管理
 - ・ 手間・ヒマ・カネ
- ⇒ 行政向き（救済・相談支援・個別対応）



重層的支援体制整備事業での位置づけ

- 左記のとおり、参加支援や地域づくり支援は、現時点では各種専門サービスにつながる前の状態である方々を救う【予防機能】【初期対応機能】を担う重要な分野であると言える。
- 初期段階だからこそ、地域で支えあうことで本人やその世帯の課題が解決に向かって上向き、状態の悪化を防ぐことに繋がる。
- 地域にとっても新たな資源開拓や担い手の確保に繋がり、プラスの相乗効果が期待される。

認定NPO法人全国こども食育支援センター・むすびえ 湯浅理事長作成資料を一部改変し、守山市健康福祉政策課が作成

【参照】厚労省資料「地域づくり」推進のための手引き（令和5年3月）より抜粋